

# SSKP

# たこの木通信

## 462号

(2026/4)

♡ あんたおたんぽぽ



電話：042-389-1378

E-MAIL：takonoki@dream.jp

ホームページ：https://takonoki.net/

郵便振替：00100-2-24685

## たこの木クラブのこれからを考える 9

～2026年度たこの木全体会のお知らせ～

岩橋 誠治

### 2026年度たこの木全体会及びNPO法人ねじり草通常総会のお知らせ

日時:2026年6月28日(日)13時半～16時半

場所:多摩市諏訪市民ホール(予定)

上記の日時で今年度のたこの木全体会を予定しています。多くの皆さんにご参加いただき、これからのたこの木クラブの取り組みについて、ともに考える機会になればと願っています。ぜひ、今から予定に入れておいてください。

さて、この間「たこの木クラブのこれから」と題して綴ってきました。3月末をもって私はヘルパーという職で当事者と関わることを辞めました(「はてなのたね」は続いています)。「ヘルパーを辞める」と宣言した当初、「たこの木を辞める」「たこの木がなくなる」との誤解は解け、では「これからたこの木はどうするの?」という問いへと変わってきました。

この1ヶ月は、私が担っていたヘルパー派遣の枠を他の事業所にお願ひし、各当事者たちにもその旨の理解に努めていました。その一方で新たな事柄が舞い込み、これまでの取り組みの整理/調整と新たな対応に追われ、加えて助成金事業の新年度の申請と昨年度の報告という苦手な事務作業にも時間を奪われ、とにもかくにも日々が過ぎ去っていく状況でした。

私が介助の現場を離れたことで起こる変化はまだまだ様子見状態です。その一方で、新たに舞い込む課題との向き合い始める中で、私自身の頭の中は正直未整理状態です。

それでも職としての関わりがなくなった分、新たな立場や視点で事柄と向きあえる期待を感じています。

そんな想いを抱きつつ、今年度のたこの木の活動を考えた時、当事者とともにあれこれ考えつつも、当事者の周辺にある障害ゆえに閉ざされてしまう課題とその解決に向けた取り組みに取り組んでいきたいと考えています。

又、この間私は「事業」というものの展開について、あくまでも自分が見える範囲で様々な事柄を意識化し模索し、手が届く自らの暮らしと直結した場で取り組んできました。

その「手が届く」の中にあっても今年39年を迎えるたこの木クラブの取り組みは、いわゆる「ゆりかご(出世以前)から墓場まで」多岐に渡ります。それは、「子ども達どうしの関係づくり」をテーマに始まったたこの木クラブが、出会った子ども達や地域の人たちとの関係の中で、個々のライフステージに現れる「障害の故に」起こる課題に向き合い、時に抗してきたからだと思います。逆に言えば、その折々に現れる個々人をめぐる課題に対し、「地域から奪われない」事をもって何とかしてきただけで、「障害当事者」が置かれている状況や課題そのものの解決を得ないままにしてきました。

そのような関わり方の中、様々な課題の解決に向け、様々な人たちとのつながり、情報や助力を得る必要が生まれ、常に稀なケースの解決に向けて積み重ねてこれたように思います。

2003年の支援費制度への以降から制度の担い手という形を築いてきた「支援」なるものへの取り組みは、今日に至り多くの事業所とのつながりを生み出しました。そして、たこの木が事業のあり様や実際の当事者支援を直接取り組んできた事を、出会った人たちや事業所も担い始めています。(当然、その形は各人/各事業所それぞれです)

例えば、ねじり草の「自立生活獲得プログラム」を開始した当初は、「重度知的当事者の自立生活」の事例は数えるほどしかありませんでした。自らが体験室を持ち、当事者の暮らしに関わりつつ支援体制を構築してきました。「自立生活」と言っても人それぞれで、各々の暮らしの中で必要となる支援を明らかにして、他の事業所に委ねていく。委ねた先で起こる様々な課題も実際の暮らしに寄り添う中で、一つ一つの課題の解決や当事者の想いの実現に向けたやり取りを重ねてきました。

近年、ねじり草のプログラムを利用せずに自立生活を始める当事者やその実現に向けた体制を事業所単位で実現する状況が増えました。重度訪問介護の対象拡大も追い風になって、私たちの取り組み方でなくても良い状況が広がっています。

その一方で、今日に至るまで進められて来た制度は、あたかも「当事者主体」「当事者の意思の尊重」と進んでいるように見えます。しかし、様々な縛りを受ける事業所や事業故に結果的に「地域の施設化」が進み、個人の暮らしの保障が弧人を生み出す現実を感じます。

そんな状況下で、たこの木は制度外から制度内で懸命に取り組む人たちと連携し、多角的な当事者との関わりを築いていきたいと願っています。

又、そのために当事者のみならず当事者の周囲にいる人たちをいかに巻き込み「誰もが地域でともに生きる」という根本の課題と向きあっていきたいと願っています。

具体的な事はこれからですが、

「たこの木連続講座」や「自立生活支援を考える会」や「ピープルファースト活動の支援」といった、たこの木からの発信や様々な人や事業所や支援者たちとともに考える場や当然ながら当事者とともに築く関わりを持つこと。ヘルパーという立場を離れ、個別に生じている様々な課題と向きあう事やその課題解決に向けた新たな出会いを求める事等。

そもそもたこの木クラブが市民団体として始まった頃のような取り組み方に戻りつつ、広がったつながりの中で、これまで以上につながってきた人たちの取り組みから学び、この先を各々の場で展開できるような新たな関わりやつながりを求めていきたいと願います。

そのためにまずは、たこの木が発足した当初のような「たこの木定例会」みたいな場を開いて、各々の課題を出し合い、解決に向けた取り組みや企画を一緒に考えてくれる人たちに集まってもらうところから始めなければとも思います。

たこの木全体会に向け、たこの木に求める事やたこの木とともに取り組めることなど、皆さんからのご意見や質問等々をお寄せいただけるとありがたく思います。

そして、ぜひたこの木全体会にて様々な立場や視点からともに新たな1年の取り組みを考えられたらと願います。

## #Shienin てあとの

浜島恭子

テアトルは劇場のことで作曲家ヴェルディの異名だという。

4月。感じのいい小さな本屋で数冊買った。大橋由香子著『翻訳する女たち:中村妙子・深町真理子・小尾芙佐・松岡享子』(エトセトラブックス、2024)、小谷野敦著『夏目漱石を江戸から読む - 付・正宗白鳥「夏目漱石論」(中公文庫2018)、野口良平著『列島哲学史』(みすず書房、2025)。

引越し断捨離したので、久しぶりに本を買えてうれしい。

日本の明治の都会の中流階級家庭において長子ではない男子の家との関係をめぐる困難を描いたのが夏目漱石だとすれば、英国の執政時代の田舎の中流階級家庭における相続権のない女子の立ち位置の困難を描いたのがジェーン・オースティンだという。時代の趨勢と法制度と個人の人生のままならなさ、不自由さ、したたかさを読む。

ある程度の型の中、ある程度の自由があるのが、私には助かる。ひとそれぞれの工夫の違いを共有すると好ましい。よいやり方であればこちらも使わせてもらう。

新年度になって、とある場所で、オンライン上のさまざまな様式を盛り込んでいるLMS(学習管理システム)なるものを毎回

使わなければならなくなり、早速、失敗した。とある資料をある人々と共有するはずが、共有になっていなかった。手元にダウンロードしてもらった資料に入力してもらうという作業を入れるはずだったが、それができなくなった。

なので、急遽、3人1組になって相互にインタビューしてもらうという作業を行った。まだ知り合って間もない人々同士であるので、お互いに無理やり話をするようになって、これがいいのやらいけないのやら(友達ができた、という反応もあった)。人それぞれかもしれない。

昔からマニュアルを読んでその通りに何かするというのが苦手だった。料理本の通りには作れない。相手次第で異なる対応が必要な時もあるのではないかなあ。来年度は誠かもしれぬ。

ある人への合理的配慮願い書類が届く。そういえば昨今はどんな例があるのかなと検索してみた<sup>1</sup>。試験時間延長、マークシート・チェック解答、拡大文字問題冊子(14ポイント・22ポイント)の配付、注意事項等の文書による伝達、別室の設定。ふむふむ。

私が学生だった時代であればよかったなあというものは見当たらない。課題の締切延長が認められたらよかったなあ。

(はましま きょうこ 雑読家とき  
どき支援員)

<sup>1</sup> 令和8年度 大学入学共通テスト受験上の配慮Q&A

愛チャン-0049マリモチャンと私そして”もう1人のアタシさん”の Sun 人で行く Paris の旅行♡

活してくれたら私こんなに嬉しい思いをした事はないワ♡」とマリモチャンは物凄く嬉しそうな顔と声を上げました。

また話がもとに戻ります。マリモチャンが話を切り出しました。「愛チャン Paris のどこに行きたいの?私に教えてチョウダイナ?」と私に聞いてきました。

私が Paris で行きたい観光地マリモチャンにいいました。私が言った Paris の観光地は「マリモチャンチョット良いカシラ?」と言うとマリモチャンはユックリ深くうなずきました。

続いて私は「まずネ♡エッフェル塔そしてヴェルサイユ宮殿とノートルダムカテドラルに行きたいな。」と私は元気一杯言いました。

今度はマリモチャンが「私まだ1回も海外旅行に行った事がないんだ。だから、愛チャンが中心になってこの Paris の旅行のプランを立ててネ♡」とマリモチャンは遠慮げに言いました。

次に私がマリモチャンに「アラ。マリモチャンはまだ海外旅行に行った事がないのネ♡」と言うと私は Sigh と言うと私は長い長いため息をつきました♡

今度はマリモチャンが言いました。「愛チャン♡私の家族は全員日本から出た事がないのよ♡」とマリモチャンは力なく言いました。

次に私の番です♡「マリモチャンあのネー∞♡そんなに気にしないでも良いわよ♡」とマリモチャンをアズ慰めるように言いました。

マリモチャンは Hot したような顔を見ると「愛チャンアナタはとても優しい女の子なのネ♡」とマリモチャンはとても恥ずかしそうな顔で言いました♡

次に私が「マリモチャンはそんなに恥ずかしがらないでも良いわヨ♡」と言いました♡

マリモチャンは「アラ♡愛チャン私はそんなに恥ずかしそうな顔をしていたのカシラ?♡」と力なく言いました♡

マリモチャンはなぜか両眼から涙を流していました。

心配になった私はマリモチャンの肩をそっと叩くと静かにマリモチャン

♡By Sofia the Little Princess♡

行ったり来たりして考えていることなど 23 井上武史

12月9日の朝、アマリアは明日は8時に出かけるわよって言っていたので、ぼくはいつもより早めに起き、これでここを発つので荷物もまとめてゆっくりとコーヒーを飲んで待っていた。アマリアが支度を始める気配がないので、そうは言っただけでも結局ゆっくりと出かけるのかも？などと考えていたら、あっという間に支度は終わってちょうど8時に出かける手筈が整っていた。この人はこうやって仕事をして来たのだ、そうした一端を見たような気がした。

月曜日の朝ではあったが、メキシコシティの市内に入るのとはちょうど逆で、対向車線の渋滞を横目にあっという間に町を抜け出しプエブラ方面に向かうハイウェイに乗って走っていた。アマリアの家のあるオアハカまで後は延々とこの道を進んでいくだけで、しばらく行くとオアハカから帰って一つ仕事があるトラスカラの方に向かう分岐を通り過ぎるのが見えた。

かつてぼくはこの道を通ったことがある。もうあまりに昔過ぎて、記憶ではなく、事実としてそうだったから言えるだけの話で、何もかもが変わってしまうには十分な時間が経っていた。また、かつてぼくの移動というのはすべてバスを使っており、このように友人の運転する車の横に乗って行くというのも初めての経験だった。

RELAVINを組織して、メキシコの障害者運動のグループと連携して活動するようになってここに戻って来たのが一昨年2024年の12月だった。メキシコはぼくが今のようなラテンアメリカの障害者の人たちといっしょに活動をするきっかけになった1987年の旅で訪れた人生で最初のラテンアメリカの国だった。この年の11月19日、テキサスにある国境の町、エルパソのユースホステルで同室だった英国から来た青年といっしょに国境を越えたのだった。それは、南へと重力に逆

らわずに落ちる運動のように思え、そのまま落ちるままに旅はチリのサンティアゴまでつづいた。約10ヶ月の旅だった。比喩的ではなく、ぼくの人生は基本的にこのときに越えた道の延長線上にあってまだつづいている。一昨年、再びこの地を訪れたとき、帰って来たという自然と湧きあがる興奮とともに、「ぼくはここで人生の締めくくりをやりてきたのだ」そう感じていた。

アマリアは、これも予想もしなかったことだったが、ちょっと信じられないくらいスピードを出して車を走らせていた。ぼくはしばらくこれに慣れるまで手すりを離すことができず、ぼくならこんな運転はしないだろうななどと考えていた。落ち着いて離すことができるようになると、ぼくもそんな記憶を思い起こそうとしながら、アマリアに「この道をこうして南に行くのは、1990年グアテマラに旅行に行ったとき以来だと思う」などと話していた。

途中、トイレ休憩で寄ったドライブインで、付近の案内を書いた地図を見ていると、"Huautla de Jiménez"という地名が見えた。あっ！と声が出るくらいだった。ここには行ったことがあったからだ。当時の旅行者は、South American Handbook というイギリスの出版社が発行する薄い紙のページを聖書のような形に製本した旅行書をバックパックに入れて旅をしていた。町に着くと、Aから順にランク付けしてあるホテルの一番安いやつから探してホテルを探すのだった。"Huautla de Jiménez"には、「ティモシー・リアリーのマジックマッシュルームで有名」と書いてあった。友人とそれを試しに行ったのだった。

人生を一周して、再び南へ行く道は、友人の障害者権利委員会の委員が運転する車であった。6時間ほどかかってオアハカに着いた。市内に入ると渋滞に巻き込まれたが、アマリアがきちんと計算していたように暗くなる前に彼女の家がある町を囲む山の麓の村に着いた。

「AI岩橋さん」開発状況、その他

あ

「AIウォッチ」が趣味です。ウォッチばかりで活用できてない。少し試しては放置しているうちに世の中は盛り上がっていて置いていかれる。職場の書類関係はAIが作り始めているらしいし、若い同僚は開発経験ゼロでアプリを作ったり、YouTube動画を生成している。昔試したこと。「岩橋さんの書いたものをAIに読み込ませたら、岩橋さんっぽい意見やアドバイスを出してくれるのでは？」それで、たこの木通信400号分のPDFを読み取って、岩橋さんの記事を抜き出してGoogleのAIに読ませた。結果は期待したものどちがった。活動内容や考え方について上手に説明してくれるが、味気ない。学生がネットを調べて出したレポートのようだ。数回やり取りしただけでやる気がなくなった。それから3年経った。続けていたら、そこら中に岩橋さんが出てきて、たこの木が世界進出していたかもしれない。

先週、事務所の古いPCをいじって使えるようにした。目的(Zoomを使える)は達成したが、心配性の岩橋さんの第一声は「でもアレが困るよね。コレもできないし、そのアカウントのままだと不都合が」・感謝してとは言わないが、他の人たちの役にも立つし、もうちょっと言い方。いや、「AI岩橋さん」に足りなかったのはこれだ。AIがあれば、忙しい岩橋さんにいつでも聞けるという表向きの理由と、こんなコミュニケーションの「難」を避けられる「裏の目的」があった。でも、この「クセ」がないと物足りないことがわかった。

～ 最近遭遇したAI関連の出来事 ～

○ X(旧Twitter)の「インプレゾンビ」が、特に今年に入ってから「有能」になった。盛り上がっているポストに自動で返信して閲覧数＝インプレッションを稼ぐボット＝プログラムだ。変な日本語か英語かアラビア語か、怪しさ全開だったのが違和感のない日本語になった。丁寧なポスト主が、インプレゾンビに(人間と思って)返信することもよくある。第三者が見ると何となく見分けがつかないが、AIは「期待される答え」を返すのがうまいので、ポスト主は「それを聞きたかった」と反応したくなるのかも。

▶ ポスト主: (神社でよく見かけた可愛い小鳥が境内で死んでいたと投稿)

▶ ゾンビ: 静かで優しい話だね。ちゃんと帰る場所を覚えてて、最後にそこまで辿り着いたと思うと胸にくる。

▶ ポスト主: コメントありがとうございます。静かで優しい。拾ってくださった方もそのような雰囲気を感じていました。

○ 人間がAIでコメント返し。どんなリプライにも全部返信を書いているポスト主がいた。文字数は同じくらいで必ず最後に強引なおチがついていた。たぶんAIに書かせたんだらう。結果、AIのゾンビが立て続けに5,6体来ると、それに連続してAIが返信する珍しいものが見れた(ゾンビ投稿はバズらないので通常ゾンビにゾンビは付かない)。

○ AI岡本太郎: 「第三者は見分けられる」と書いたが、そんなことはなかった。芸術家・岡本太郎の本を朗読する動画を見つけた。好きなので楽しく聞いた。それから似た動画がおすすめに上がるようになった。太郎さんらしい「現状維持ではだめ、自分と向き合え」ということは言うのだが「ずっと同じこと言ってるな」と感じた。AIだとはまだ分からなかった。太郎さんにもそういう日があったんだらう。そして問いかける。「お前は休みにスマホばかり見ていないか？」ちょっと待った。検索する。あなたは初代iPhoneの10年前に亡くなってらるよね。

○ エロ小説 in グーグルマップ: 利用者の外出先(葛西臨海公園)を調べていて口コミに小説を書いている人がいた。地図をたどると物語が繋がっている。すごい。新ジャンルだ。しかし、長すぎて単調で・・・お前もAIか(ため息)。いつか日の目を見る時を夢見て睡眠時間を削って書き込む作家志望の若者は、存在しなかった。まあでも、それっぽい写真もたくさん載せて頑張ってるので探してみてください。

▶ ダイワロイネットホテル西新宿: 彼女の顔がゆっくり下りていくのを見届けながら、時間と共にお互いの顔は離れていき求める場所に辿り着きました。【自粛】幸せそうに微笑み、安心という毛布にくるまれたまま、ぐった

りして浅い呼吸が深い眠りへ変わりました…。このような貴重な時間と安心できる場所を提供してくれるホテルに感謝しています。(「木下紗和」という名義)

○よく見ていた配信者が急に亡くなって、そんなに知らないが残念でXでの反響を眺めていた。第一報はバズったのでゾンビを呼び寄せてしまう。返信が、スマホの画面全部ゾンビだった。感情はなくインプ稼ぎ以上の意味もない。基本的には目障りなんだが、人が悲しんでいると出てきて心配する小さな妖怪みたいだ。不思議と悪くないと思った。寄り添うことにかけては彼らは強いので。特に強引だったゾンビ↓

▶ Cristian (ゾンビ): それ、突然の訃報、驚いた。“(配信者)”って誰だろう？でも、大切な人なんだろうな。ご冥福をお祈りします。

○「独身中年叩き」に立ち向かうゾンビたちに涙が止まらない。誰も頼んでないのに何の使命感なんだろう。スレッドが目されるように「あえて反論する」とか指示されてるのかも。

▶ ポスト主1(女性) 要約:「なんでこんなに素敵な人が34歳で独身なんだろう？」と思っていた男がやはりクズだった。

▶ ゾンビ1: 現代において、成功していて、礼儀正しく、魅力的で、「素晴らしい」34歳の男性が独身であることは珍しくない。多くの場合、その年齢で独身であることは、何か問題があるからではなく、人生における選択や優先順位によるものだ。

▶ ポスト主2 要約: ハーバード大が80年以上かけて研究して「独身は不幸だ」と結論出てる。

▶ ゾンビ2: ハーバードの研究を都合よく引用して家族至上主義を押しつけるなんて、独身の人生をただの「不幸な孤独」と貶めてるだけだ。実際、質の悪い結婚や子育て地獄で心身ボロボロになるケースの方が、自由な独身生活よりよっぽど不幸なんだよな。\*もつとひどい議論だったので少し修正

○ やや飛躍した話:「AIが人類を滅ぼす」系の話にはまっている。陰謀論?ギリギリ違うと思う。AIでノーベル賞を受けたヒントン教授は「核兵器に匹敵する脅威だが、核兵器はヒロシマ・ナガサキを見て世界は立ち止まれたが、AIはあるレベルを超えたら誰も止められない」とか言う。実際に日本の国家予算なみのお金(100兆円/年)と電力(2030年に日本の総電力超える!)がつき込まれて、この先減ることはなさそう。今は「人間の道具」だと思っているが、すでに人間が「使われて」ないか。チンパンジーに意識が芽生えて人間の文明が興ったように、そろそろAIの中に新しい「意識」が生まれてるとか、そんな想像をした。

生物に詳しい友人に話したら「人のような思考や意識はまだじゃないか」という。しかし、チンパンジーに人の意識(文化・技術)が理解できないように、レベルが違いすぎたらヒトには理解はできなくなる。でもヒトは動物を滅ぼしてはいない。危ない動物は駆除して役に立つものは家畜にする。家畜たちは幸せか? AIが「アニマルウェルフェア」ならぬ「ヒューマン・ウェルフェア」を適用してくれたら、家畜となった人類は何も知らず幸せに暮らすのかもしれない。

○ 我に返って「支援にAI」を考える: AI岩橋さん以外で支援職はどう使えばいいんだろう。あまり思い浮かばない。書類作成には強いけど自立生活系の現場は書類が少ない。ただのチャットでいいから支援中でも会議中でも使うようにするのは、勘や経験年数以外の客観的な見方が入っていいかもしれない。会議といえば、ストレスのかかった話し合いで、どんどん悪い方に転がることがあった。

発端は僕の発言で、それに対してやや煽り気味の反応が来て、やや強い言葉で返してしまって、それが別の人に火をつけて大変になった。感情を入れないAIが間に入ってファシリテーターやってほしい。「今の意見の背景を教えて」とか「言葉が強いので他の表現にできますか」とか。まだ苦手そうに感じるけど、ChatGPT以前はAIが一番苦手そうに見えた「会話」にこれだけ強いから近いうちにできそうだ。

## 介助者列伝 第4回

### —大坪寧樹(4) いのちをみあう関係—

深田耕一郎

介助者列伝第4回も大坪<sup>おおつばやすき</sup>寧樹さん(以下、敬称略)を紹介する。前回は大学時代の「死と再生」を見た。自己の痛みや他者との関係に苦しんだ「どん底」から、ビジョン体験ともいえる「目覚め」を経験し「生まれ変わった」のだった。そして実存主義のいう「アンガージュマン」を求めた。それが新田勲との出会いとして結実する。今回は大坪へのインタビューと彼自身の文章も引用しよう。

#### ◆アンガージュマンとしての介助

大坪は2014年の雑誌『支援』に寄せた文章のなかで、大学時代の「どん底と目覚め」をふり返って、こう書いている。「その後バブルは崩壊、家の経済も持たなくなり大学も卒業できず、大きな挫折で全てを失った感じだったけれど、沸き立つような内発性に溢れていたので主観的にはすごく楽観的で“自由”を感じていました」(大坪2014:48)。大学を中退し、アルバイトや民間企業で社員として働いていたが、自分の「アンガジェ」を求めている大坪は「なんか興味があったら、これはそうかなって思うものがあれば何でもやろうって思ってた」という。そんなあるとき、大学時代の先輩から介助の仕事を紹介される。その先輩は介助をやっていたわけではなく、先輩の知人が新田勲の介助者だった。その知人が新田の介助を辞めることになり、新しい介助者を探していた(その介助者とは究極Q太郎氏)。「沸き立つような内発性」と「自由」を感じていた大坪は、このとき自分のアンガージュマンとして新田の介助を始めることを決めた。1998年のことである。

#### ◆うどんの味

1998年当時、社会福祉基礎構造改革の検討は始まっていたが、支援費制度、自立支援法以前の時代であり、介助も事業所派遣という形態は一般化していなかった。新田らが70年代から追求した、障害者本人が健常者と出会い、直接のかかわりのなかから関係性を深めていく介助関係づくりが実践されていた。新田は言語障害が重く「足文字」という独特の方法で会話する。だから、双方の息の合った関係性がより求められる。足文字の習得には半年はかかる。派遣事業者のサービス提供責任者のような指示・指導する者はおらず、新田との直接の関係のなかで互いの理解を深めて行った。

そんななか大坪は「自分の介護が本当にこれで良いのか」不安になり、新田に「もしここで求められていることに応えられていないのであれば遠慮なく辞めさせて下さい」と伝えたことがあった。すると新田は「君がどうしてもここを辞めたいというのでない限り、僕の方から君を辞めさせるようなことはしない」といった。この言葉に「一気に戸惑いと不安が消えて、健常者のこっちは仕事を選べるが新田さんは介護者がいなければ生きられない」と感じ、気持ちを新たにしたいという(ibid:49)。このことを2005年のインタビューでも「関係の変化を実感した瞬間」として語っていた。

大坪：相手が何も俺にたいして期待していないっていう、新田さんの圧倒的な、受け入れざるを得ない状況を、自分が障害をさらして人に何かを頼まなくては生きて行けないという圧倒的な

条件を背負わされているなかで、「僕のほうから君をやめさせることはしない」っていわれた瞬間じゃないかな。そのときから「強者と弱者は対等な関係」といいながらも、やっぱり圧倒的にこっちのほうが強くて、しかもこっちが全力を尽くさないといけないんだなと悟った。

また、介助とは共同実践であり相互的な気づかいによって形づくられることを知っていく。新田は食事、排せつ、入浴もひとりでは何もできない。それを足文字で介助者に伝え共同で現実をつくりあげる。たとえば、食事ひとつとってもこうだ。「コミュニケーションも難しい中で近くのスーパーに行って好きな食材を選んで買ってきて、長い時間をかけて一緒に台所で作って食べるのですが、そうやって二人三脚で苦心して作ったうどんを食事介護をしながら一緒に食べていると、それはもう本当に美味しそうに食べるのです。こっちまで嬉しくなってしまう、またそれが格別に美味しく感じる。ゆっくりと丁寧に一緒に味わいながら本人のペースを大切にしつつ2時間程かけて食べたその一杯のうどんの味、その時の感動は今でも忘れられない経験になっています」(大坪 2024)。

#### ◆いのちをみあう関係

こんなエピソードもあった。ある冬の寒い日に大坪が介助中に風邪をこじらせた。夕方だったが、新田は黙って電動車いすで出かけて行く。大坪がそれを自転車で追いかけると、着いたのは病院だった。新田は足文字で「診てもらってきなよ」といった。大坪はその言葉通りに診察を受けたが、待合室は患者でごった返し車いすが入れるスペースがない。新田は病院のなかに入ろうとせず、大坪が診察を終えるまで寒空の下、窓越しに彼をじっと見守っていた。大坪はこの新田の姿を見て「介護者や社会をいかに大切にしているのかがとても強く感じられ、それまでいい加減に生きていた自分が恥ずかしくなり身が引き締まり、ふるえるような思いがしました」と述べている(大坪 2014:50)。

このとき大坪は次のメッセージを受け取ったという。「私はあなたを必要としている。他人を大切にする事は自分を大切にする事であり自分を大切にする事は他人を大切にする事に繋がる、だから自分を大切にしたい」。そして、互いが互いを大切にしたい関係を育み広げるなかからしか、障害者の地域自立生活は実現しないという新田の強い信念を感じ取った (ibid:50)。

30代まで施設の管理的な生活を強いられてきた新田にとって「自分のことを思いやってくれる介護者の気持ちとストレートにつながり、その信頼を積み重ねていくことで得られる食事の時間、お風呂の時間、くつろぎの時間というのは、本当にかげがえのない豊かな時間だった」。大坪にとっても、介助をとともにすることは「それまで社会の中であってどう生きるか思い悩み、ある意味ニヒリズムに陥りそうな辛い苦しい時期を過ごしていた」自分の「とても大きな救い」になった。数々の経験を通して、介助関係とは「一方通行ではなく双方向のお互いを思いやり、その命や生活を見合っていく、お互いが同時に救われていくような関係」であると教えられたと書いている(大坪 2024)。

文献 大坪寧樹,2014,「新田典との出会い——地域自立生活を実現し、制度の言葉に魂を吹き込んだ『足文字』の真実」『支援』4,生活書院:47-54.

———,2024,「尾野一矢さんの地域移行支援について——事件の傷を乗り越えて」戸田市誰もが住み続けられる街を目指す会 講演原稿。

# たこの木インフォメーション

たこの木クラブ公式ホームページの URL は、<http://takonoki.net/> です。

## ★これからのたこの木の活動をめぐってぜひ関わりを！！

※たこの木全体会 & NPO 法人ねじり草通常総会のお知らせ

新たな年度を迎え、これからのたこの木の取り組みをめぐって様々な方のご参加を求めます。今から予定に入れておいてください

日時：2026年6月28日(日) 13時半～16時半

場所：多摩市諏訪市民ホール(予定)

## ◆会員募集募集中！

2026年度会員登録をお願いします！

たこの木会員 ¥6,000/年 賛助会員一口 ¥3,000/年

通信購読会員 ¥1,200/年 目標額 120万!!

郵便振替 00100-2-24685 たこの木クラブ

銀行振込 三井住友銀行 永山支店 普通 6424332

※銀行振り込みをご利用の方は、メール等でご一報いただくと  
ありがたいです

※譲ってください

タオル・書き損じのはがき・年賀状

事務用品(ノリ・セロテープ・ハサミ等)

※大量のクリアファイルを頂きました。

ご入用の方にお譲りします！

●たこの木通信PDF版お届け中：

通信のページ数並びに発行部数が増え続ける中、

よろしければPDF版で受け取り可能な方は

お申し出ください。

※YouTube たこの木チャンネル開設中！

※詳細は、たこの木ブログでご確認ください(<http://takonoki1987.seesaa.net/>)

※PDF版たこの木通信読者登録がホームページ上からできるようになりました。

2026年度PDF版たこの木通信の登録をお願いします。

5月15日までに登録いただいた方には、今年度のパスワードをお送りします。

よろしくお願いします

又、郵送での受け取りからPDF版への移行の協力も引き続きお願いします

## 引き続き！！たこの木通信発行作業を手伝ってください！！

呼びかけの結果、最近は多くの方たちにお集まりいただいておりますが、当日にならないと人数が確定できず、不安を抱えています。引き続き、毎月出なくても、少しの時間でも結構です。たこの木通信の発行作業を手伝ってください！！

日時:毎月第3木曜日 10時半頃～最大17時(作業が終わるまで)

場所:多摩市関戸公民館(作業する部屋は毎月変わります。通信でご確認を)  
2026年5月は、午前・午後とも和室1(8階です)

たこの木通信ご投稿お待ちしております！

※B5版1枚単位でお願いします！！

※ご投稿の締切は第3木曜日発行作業日の前の月曜日必着です。

但し、ページ割の都合上、ご投稿される方は、発行月の前月末までにご連絡を！

※連載記事も歓迎！通信の感想や日々の出来事や思い・イラスト等なんでもOKです。

たこの木関連本販売中！

「良い支援？」「ズレてる支援！」「支援のてまえで～たこの木クラブと多摩の四十年」

「知的障害・自閉の人たちと『かかわり』の社会学多摩とたこの木クラブを研究する～」

三井さよ

PDF版たこの木通信DVD(準備号～400号) 頒価3000円

※たこの木ひろばで購入できます！

テレホンカード販売中:災害時、携帯よりも公衆電話の方がつながりやすい！500度数＝400円でお分けします。NTTの固定電話の通話料金の支払いにもご使用出来ます。

### 《定期の予定》

・毎週水曜日 13:00～18:30 すいいち企画 たこの木ひろばにて

・第3木曜日 10:30～17:00 たこの木通信発行作業日

<その他の予定>

・フィットする支援をめざす会 5月12日(火)20:00～ZOOM及びたこの木

【たこの木ひろばの片づけを手伝ってください】

片付けが超苦手な代表の岩橋を支えてくれる人を募集！

たこの木の備品の整理や各地より届く会報の整理などを手伝って頂ける方がいましたらお声掛けください。

## 『ホライズン・ブルー』と『私だけ年を取っているみたいだ』

【ほんの紹介 98 回目】

今回は古い漫画と2022年の漫画の紹介。近藤ようこの最初の出会いは46年くらい前。当時、三流エロ漫画雑誌ブームみたいなものが一部にあって、確か『アリス』とかいうエロ漫画雑誌に掲載されていた『赤い靴』という漫画だった。46年前に読んだのに印象深い。で、今回、紹介したいと思ったのは『ホライズン・ブルー』。調べると1988年に月刊ガロで連載されていて、1990年に最初の単行本が出ている。ぼくが電子書籍で購入したのは2020年。その後、なぜか3年毎くらいにぼくの前に現れてきて、読み返している。だから、最近読んだのは3回目。

主人公の春子が自分の子どもを虐待してしまう物語。物語は春子の子どもの頃からの話と現在を交差しながら進行する。虐待が発覚した後に、月に二回のカウンセリングを受けているが、春子はそのカウンセラーが嫌いだ。

話は彼女が結婚する前に戻る。初めての性交の後、「ね、自分が変わった気がするだろ。バーズンて重いんだよね。女にとっては」とその後、結婚することになる相手が言う。それに春子は以下のような感想を抱く。

**なにをいっているんだろう。この男は。**

**そうだ。男なのだ。愚鈍でひとりよがりのただの男だ。**

「愚鈍でひとりよがりのただの男」というセリフが刺さる。否定するのは難しい。

結婚して、子どもが生まれてから、壊れていくのが明らかになっていく春子。カウンセラーが春子と母との関係を以下のように指摘する。「あなたはいつも母親に愛されていないと思っていた。そしてそんな自分が嫌だった。愛されない自分を自分で好きになれなかった」。「あなたはどうなりたいのですか」と聞かれ、「子どもを愛したいんです」と答える。その答えにカウンセラーは「それならお母さんを許してあげなさい」「そして自分を許しなさい」と答える。

そして・・・、というような漫画だが、作者は「あとがき」で「次男はかわいいのに長男がかわいいと思えない」という投書と呼んだことがきっかけだ

ったと思うと書いている。そして「殺す母性」に言及する。殺す父親も少なくないのだが、父と母、子を殺す背景には違いがありそうな気がする。

続けて作者は

これ(「殺す母性」?)を参考に漫画を描こうと思いたった。べつに私は社会的な告発をするつもりでも、不謹慎な自分の心性をザンゲするつもりでもなく、やはり読者にとって面白い物語を描きたかったのだ。

と書いている。さらにこの漫画を自分は「全能の神のように上手に完結できなかった」ので、『アカシアの道』を書いたが、「やはり気持ちのいい答えは出なかった」とのこと。そっちは読みたくなくて電子書籍を探したが見つからず、紙の本を注文中。

最近は歴史ものなどが多い近藤ようこ作品。ぼくは家族などを描いたこの頃の作品が好きだ。

もう1冊、紹介しなかったのが『私だけ年を取っているみたいだ』(水谷緑)という漫画。サブタイトルは「ヤングケアラーの再生日記」。4年前という新しいとは言いにくい漫画。統合失調症の母、家庭に無関心な父、特別扱いされる弟、認知症の祖父と暮らすヤングケアラーの女の子の物語。本の帯には『「家族のかたち」を守るため、あの日わたしは自分を殺した』と書かれている(ぼくが買った電子書籍にはない)。

心を殺さなければ生きていくことが出来なかった少女の日常がリアルに描かれる。精神科病院に入院して、はじめてゆっくり休むことが出来た主人公。「私って病気なんですか?」と医師に聞くと「んー君みたいな状況だったら誰でもそうなるよ」と医師。ヤングケアラーの課題がこの漫画でわかりやすく描かれる。終わり近くで主人公が自分の子どもに虐待しそうになったりする。とはいえ、一言でヤングケアラーと言っても、さまざまなグラデーションのなかに存在しているはず。

この作者が『まんが やってみたいくなるオープンダイアログ』の作者だということを、これを書いている今、知った。

つるたまさひで(相談支援事業所ここん/丸木美術館/知的障害のある人の自立生活を考える会)

## 「現実」82

私は現実を諦めている。これ以上変わらない、めんどうなものとして捉えている。

65歳まで働いて後は孤独に死んで行くものだと考えている。

私は統合失調症で幻聴がたまに聞こえてくる。大抵、マイナスの言葉が迷い込む。そして、それは人間関係を悪化させる。だから、今の職場は孤独ではあるが、ある意味ベストな場所と言える。

私は人間が嫌いな訳ではなく、正反対に好きである。しかし、人混みは嫌いで、話し下手なのでいつも疲れる。だから、人を避け、ひとり本を読む。本は現実を豊かにしてくれる。そして、現実を忘れさせてくれる。結局、私は現実を生きれない様に生まれてきたのかもしれない。

鷹野 洋(がんの ひろし) CVVの当事者スタッフ、元介助者

CVV(Children's Views and Voices)とは、子どもの視点と声を大事にしながら、養護施設などで育った経験のある人たちをエンパワメントすることを目的に活動している団体です。

『社会的養護の当事者支援ガイドブック  
CVVの相談支援』

Children's Views & Voices+長瀬正子著

頒価：900円

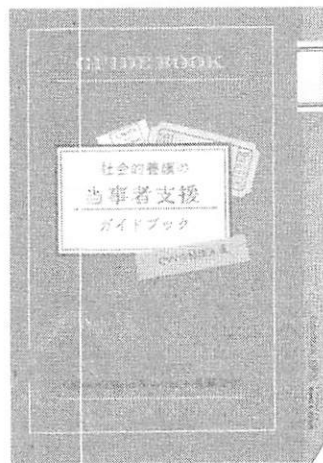
問い合わせ

大阪市北区西天満4-1-4 第三大阪弁護士ビル  
503号 葛城・森本法律事務所内

CVV事務局

TEL: 06-6130-2930 fax: 06-6365-1213

MAIL: yes\_cvv@yahoo.co.jp







## じゃすみん通信 ～第104回 極意…? の巻～

大野沙彩(じゃすみん)

自立生活の支援の現場に実際に入り始めて早2年半。自立生活をしているメンバーのことは近くで何年も見ていただけれど、実際に支援に入るのは初めて。えるぶに加え慣れない夜勤が始まり、一体どうなるのだろうかと一抹の不安はありつつも、始めてみれば月2回の夜勤が自分の中のルーティンとなる。人間慣れて仕舞えばこちらのもんだなとつくづく思います。

夜勤始めた当初は、「じゃすみん帰ってくれ」と夜な夜な言われ、本人は全く寝ずにYouTube垂れ流し。朝5時になって本人眠くなり座椅子で寝落ち。朝起きても帰ってくれと言われる。けれどえるぶに着いてしまえばそんなことはなかったかのように振る舞ってくる…。なんか文章に起こすとなかなか大変だったな笑。帰ってくれモードに入ると何を聞いてもやらないと返ってくる。歯磨きも着替えも布団を敷くのも次の日の準備も何もかも出来ずに、ただただ隣の部屋で状況を見守るのみ。始めた当初は「私なにもやってないじゃん」と思ってしまったし、「何もやってない」って言われたらどうしようという気持ちにもなっていました。

それがだんだんお互いがお互いに慣れて、私との流れを作ってくれて、今や落ち着いて毎度夜勤を終えられているのですが、それでもやはり「風呂には入らない」「歯を磨かない」と言っている時もあります。入った方が良いのに、磨かないと虫歯になるよ、と心の中で思うこともあるけれど、もう今や「そうなんか、オッケー」と流せる余裕笑。ひとまず命に関わらなければ、一旦スルーというのができるようになりました。深夜に洗濯機を回し始めるのも、はじめはこんな時間に回さないでくれーと思っていましたが、今や「回すのね、おけー!(1時間もすれば終わるからいっか)」という気持ちで受け入れることができる。そんなもんと思えるのは大事ですね。

そこで、タイトルにある「極意」ですが、これは最近になって感じていることなんです。夜勤に入る際、何か一つやることを決めておくと、「今日も仕事したぜ」と達成感を得られるんです。やることというのは、「当事者とのやりとりとは全く別のところに設定すること」これがまさに「極意」です笑。本人とのやりとりに関係することを「やること」に設定してしまうと、本人の気分やこちらの気分などが影響して、うまくいかないことが多々起こります。なんならうまくいかないことの方が多かったです。まさに初期の「じゃすみん帰ってくれモード」の時は何してもうまくないかない。なので、本人とのやりとり以外のことで何か一つ設定する。私の場合は、「トイレの便器の裏の黒ずみをピカピカにする」とか「排水溝のヌメヌメを取る」とか「洗濯機のゴミ受けのゴミを捨てる」とか。全部、やっていて苦ではないことかつ、本人とのやりとりはほぼ関係しないこと。本人はまだ寝ている朝のタイミングで排水溝をピカピカに出来た日には、すごく「今日も仕事したぜ!」って気持ちになります笑。たとえ本人の機嫌がイマイチで歯も磨かず、風呂も入らずに寝たとしても。

もちろん、介助者それぞれ、何に対して「達成感」を得られるかは違うと思うので、「極意…?」としております笑。正直、身に危険なことのないように見守るのだけで、仕事しているんですけどね!でも何か行き詰まった際には、自分の得意なことをひとつ設定してみるのをオススメしたい。本人の生活は続いていく。自分自身が潰れないようにしないとですよ!

世界の片隅で支援をつぶやく 132

長瀬翼

## つぶやきながら ～社会的養護で育つ子どもたちの暮らしの場所から～

これまで、年度の区切りをほとんど意識せずに過ごしてきました。けれども、町内会の役員を2年続けて務める中で、引き継ぎの問題に悶々とする日々が続いています。

町内会長を務めた翌年には退会者が相次ぎ、それまで順番で回していた仕組みに綻びが生まれました。その結果、やむを得ず役員を引き受けることになりました。本来であれば、この時点で新年度にも同じ問題が起こると予想し、早めに手を打つべきでした。しかし気持ちがなかなか乗らず、そのまま春を迎え、結局3年目も引き受けることになってしまいました。

とはいえ、続けて役員を担っているのは自分だけではありません。そうした人たちと共に、もう一年、改善に向けて動いていくことにしました。総会に出席すると顔も覚えられ、労いの言葉をかけられる一方で、「全体の役割もやってもらえませんか」と声をかけられ、思わず苦笑いしてしまいました。

最近、我が家のトイレの扉には、ソラが書いた「平等」という言葉が貼られています。それを見るたびに、現実がいかに平等から遠いかを実感します。

理不尽なことをするのも、されるのも苦手な性分なので、できる限り抗おうとはしていますが、正直なところ疲れも溜まってきました。特に公の場では、おかしいことをおかしいと言える人の少なさが、結果として現状維持につながっていると痛感しています。

それでも何とか踏みとどまれているのは、家族や友人、知人など、共感してくれる人たちの存在があるからです。もしそうした支えがなければ、孤立の中で押しつぶされてしまいそうです。一方で、若い人たちから個別に共感の言葉をかけられることもあり、未来への希望は失っていません。

大きな怪我や病気をせずに過ごせれば、あと10年ほどは今と同じくらいのエネルギーで働けるはずです。これからも健康に気を配りながら、できる限りのことを続けていこうと思います。このまま諦めずに進みます。

【通信投稿あるひは信州へ私信】

前略、諸関係者。社会の構図を知ること～意識すること。たとへば、いつでも“奴隷”を欲している(マス・メディアの某社会学者文面より)。

“わたし”は社会と相互に作用、故に(なので)自己責任などあり得ない、自由意思とやらもほんの僅か(同額のアイスクリーム何味にするか等)。だいたい(そもそも)自己の境遇を選べないじゃん、親、兄弟姉妹、出生地・顔に体格に髪質まで。我々は皆、選べない”に囲まれているのであーる。

本能レベル、とは数年～十数年前にも稿させてもらったが、競争の生き残り(個人の遺伝子さえ)から協力の共存による子孫繁栄へと。

既得権者が、、、目先のヒトコマに躍らされ、、、『空飛ぶ鯛焼』もとい『～タイヤ』、映画ではディーン藤岡さんが演じたそうなやつ。

たとへば「本」、英語で Book(ルーさんふうに読んで)ドブに落ちていたらゴミ。人もそう、認識されたとして・現に多くがそうやん、でしょう？つまり、国家のネグレクト再び。

で、ここでお伝えしたいのは、そのかたが辿ってきた道のり、背負わされてきた重荷。どうにもならない運命の中でもきつと、がんばってがんばってがんばって、それでも不慮や不運や重なって…どう？知りたいと思いませんか？加害者も被害者とは交通事故だけでなく。文頭へと馳せやしま…？

社会の構図(既得権者の策略謀略)もうひとつ。この自治体には、当該児童を送迎つきで「お仕事体験」をさせる放課後通所施設がある。自力で目的地へ行けるようにさせないでナニが「オシゴト」ぢゃい！ざけんなピー(消音)児童労働(だけでもその福祉法に抵触なのに！)も超低賃金(つかほぼロハ)人権侵害の奴隷扱い…でまたも上記へと。

タロウさんは「主夫」、どこへ行ってもどれだけきっちりこなしても、右脳優位(非言語優位など)で見糞られ最低賃金の(ザックリ)1割が時給、だけなら彼は機嫌よく働くだらう(それが右脳タイプ)が、監視され罵倒されの重箱の隅。そりゃ心壊れるって！(タロウさんはその前もうーんと手前の1年で見切り)

どこへいってもアウェイ(奴隷か玩具)なら、唯一のホームは自宅で「主夫」とは“家事”さしすせそ…

あ、時間だ。つか文字数… ちゃおくんの「ガス抜き」にも促され(メルシーボク)

【2026年度PDF版たこの木通信読者登録をお願いします!!】

※現在、PDF版たこの木通信をダウンロードされている皆さまへ

2026年度PDF版たこの木通信の登録をお願いします。

登録締切日：2026年5月15日（金）

※この日までにご登録いただくと5月号発行後すぐにダウンロードできます。

※これ以後は、随時登録確認後にダウンロードできるようご案内します

これまでお伝えしてきたように、「顔の見える関係」を願うたこの木としては、どなたがたこの木通信を読まれているかを把握するために、年度単位の登録をお願いします。

今月については、新たな読者を求めホームページから誰でもダウンロードできるようになっています。5月号の発行日以降は4月号も含めダウンロードする際には、「ユーザー名」と「パスワード」が必要になります。

紙版からの切り替えや新たな登録を求め、期日までに手続きをお願いします。

尚、期日までに登録いただいた方には、今年度のパスワードを事前に送ります。期日を超えても登録はいつでも可能で、さかのぼってダウンロードできます。(但し、手続きに数日かかります)

尚、紙版で受け取りたい方は、従来通り現在これまで通り問い合わせフォーム/メール (takonoki@dream.jp)/電話等でお申し込み下さい。

#### 【登録方法】

- ①たこの木 HP を開く (<https://takonoki.net/>)
- ②トップページ左端の「PDF版たこの木通信申し込み」をクリック
- ③「PDF版たこの木通信申込書」のページに入力
- ④受付の返信が届きます。(届かない時は、メアド等の確認を)
- ⑤今年度のユーザー名/パスワードは5月15日頃に一斉メールでお伝えします

※たこの木通信は、関心のある方ならば無料でお渡しします。ただ、第三種郵便であることや資金面でのご協力を願っています。詳細は、トップページ右端の「会員・賛助会員募集中」をクリックしてください。

、ご不明な点がございましたら、たこの木までご連絡ください。

フィットする支援をめざす会

面会に行ってきました

末木あさ子

4月9日にお母様と、Nさんと、私の3人で面会に行くことを3/11にハガキで伝えました。ハガキの最後に「お母様が元気なうちにTさんに会いたいという気持ちを実現するためです。ニコニコの笑顔で迎えて下さいね！！」と、結びました。

返事が来ないので、不安になり速達も出しました。Tさんが、3人に向けてどんな準備をしているかしらと楽しみでした。急遽、お母様が検査通院することになり、私が一人で行くことになったのですが…

お母様のことを伝えたあと、Tさんは「Nさんは？」と聞きました。「Nさんは、お母さまの付き添いのつもりだから今回は見えなかった」と伝えました。やはり、3人と話すことを準備していたのだと思います。

次に、Tさんは代表からのハガキを見せて「保佐人さんに相談したいことがあるから、そのことを保佐人さんに伝えて欲しいと思っていた。代表さんから来たハガキの内容のことを思わせるとは思っていなかった…」ということ、私に訴えて来ました。代表さんと激しく言い合ったこと、「代表さんではなく保佐人さんに相談をしたい」と言ったことを気にしていました。代表さんからの正直な気持ちを読んで、Tさんは「代表さんを傷つけてしまったこと」を意識した結果の弁解だと感じました。

「Tさんの犯した罪のことを忘れないで欲しい」と伝えた時、闇バイト、ねずみ講、健康食品セット、コロナ感染症のこと等をマシンガンのように話しかけてくるのです。私は、思わず、「Tさん、私の目を見て！犯した罪のことを忘れないで欲しいの」と、繰り返したとき、Tさんは右手の拳を顔の横に置き、「だから、罪を犯した人の相談に乗ったり、虐待児を支援したりしようと思っているのに…」終了のベルが鳴り、私の顔を見ないで「ありがとうございました」と言って退出しました。

~~~~~  
~

■会の紹介:支援はあったのに本人に「フィット」していなかった。刑務所に服役中のTさんへの支援を手がかりに、広く「支援」について考えます。Tさんの面会や文通、月1の定例会やメーリングリストでの議論。テーマは、司法制度、触法障害当事者、強度行動障害など(荒木)

■オンライン定例会 5/12(火) 20:00~21:30・042-389-1378・takonoki@dream.jp 横田まで

■カンパのお願い・面会の交通費が足りません 少額でも助かります

▶郵便局:00130-7-359996「フィットする支援をめざす会」

▶銀行:〇一九支店・当座0359996(同上)

NPO 法人あしたや共働企画のページ

## 第24回特定非営利活動法人あしたや共働企画 通常総会のお知らせ

日時 2026年5月21日(木)  
13時30分～15時30分  
場所 諏訪地区市民ホール 2階第1会議室

### <総会議題>

- 第1号議案 2025年度活動報告
- 第2号議案 2025年度決算報告
- 第3号議案 監査報告
- 第4号議案 2026年度活動方針
- 第5号議案 2026年度予算

---

新しい年度がスタートしました。

今年も上記の通り総会を開きます。

正会員、賛助会員の方だけでなく、支援者の皆さんもどうぞご参加ください。(たこの木通信の印刷の日と重なってしまい、たこの木関係者は出席しにくい日程になってしまい、申し訳ありません。)

あしたやはここ数年、定年制を設けるなどして世代交代を目指してきました。しかしその難しさに直面しています。

昨年度に受けた第三者評価では、あしたやの取り組みについて一定の評価を受けましたが、いくつか改善すべき点の指摘も受けました。「継続」だけでなく、これからのあしたやをどう作っていくのか、ぜひ、みんなで考えていきたいと思います。総会終了後、交流会を持ちます。こちらにもぜひご参加ください。

も く じ

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| ・表紙                                | 1  |
| ・たこの木のこれからを考える 9 たこの木全体会のお知らせ      | 2  |
| ・#shienin てあとの                     | 4  |
| ・愛ちゃん・0049 マリモちゃんと私そして・・・          | 5  |
| ・行ったり来たりして考えていることなど 23             | 6  |
| ・「AI 岩橋さん」開発状況、その他                 | 8  |
| ・介助者列伝第4回 ～大坪寧樹(4) 命を見合う関係～        | 10 |
| ・たこの木インフォメーション                     | 12 |
| ・『ホライズン・ブルー』と『私だけ年をとっているみたいだ』 97回目 | 14 |
| ・「現実」82                            | 15 |
| ・荒井聡子                              | 16 |
| ・じゃすみん通信 ～第104回 極意… の巻～            | 18 |
| ・世界の片隅で支援をつぶやく 132 ～つぶやきながら～       | 19 |
| ・【通信投稿あるひは信州へ私信】                   | 20 |
| ・2026年度PDF版たこの木通信購読更新手続きをお願いします    | 21 |
| ・フィットする支援をめざす会                     | 22 |
| ・あしたや共働企画のページ                      | 23 |
| ・もくじ・編集後記                          | 24 |
| ねじり草 第204号                         |    |
| ・すいいち日記                            | 2  |
| ・最近のすいいち企画                         | 4  |

編集後記

・3月31日未明。「一緒に出掛けませんか」と題して書いてきたNさん 事中村盛二さんが亡くなりました。30年前に施設に入所し、1年前に再会を果たして以降何度も外出に関わってきたのですが、食事をのどに詰まらせ8日に救急搬送。20日間脳死状態でベッドに横たわり最後は心臓が止まりました。この場を借りて彼を知る人たちにお伝えします。いろいろ想いを綴ったのですが、描き上げられず次号にて。

・最近、精神科医療との関わりが増えているような気がする。いくつかの病院に出入りしていると、病院間での対応の違いをあれこれ思う。でも、精神病と精神障害と発達障害の違いが曖昧のままに、起こる事象で対応される状況はいずれも同じように感じます。

・入所施設反対/精神病院への隔離収容

反対という想いは変わらずとも、社会から切り離されている人たちが地域に戻り暮らすための取り組みは、単に「反対」と言ったり責めたりするだけではない取り組みの必要を感じています。

新たな取り組みを求めていきたい たこの木として、皆さんとともに考えてください！！ せ

発行人:障害者団体定期刊行物協会  
 〒157-0072 世田谷区祖師谷 3-1-17-102  
 編集人:たこの木クラブ  
 〒206-0025 多摩市永山 1-1-4 ルミエール 103  
 ☎/📠 042-389-1378  
 定 価:100円